

平成二十六年 度

九州大学法科大学院入学試験問題

## 論文試験

### (注意)

- 一 本試験問題は指示があるまで開かないこと。
- 二 本試験問題は(この表紙と白紙を除き)十頁、解答紙は二枚である。「始め」の合図があつたら、それぞれ確認すること。
- 三 解答文は横書きとし、所定の解答欄に記入すること。
- 四 論文試験の筆記具は、B又はHBの鉛筆又はシャープペンシルを使用することとし、それに従わない答案は無効とする。
- 五 ラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題検討のために、問題用紙及び答案構成用の下書き用に限る許可する。

第一問 次の文章をよく読んで、問(1)・(2)に答えなさい。

【出典】小沢牧子『心の専門家』はいらない』(洋泉社、二〇〇二年)

三三頁最終行―三六頁二行目(中略) 七四頁一行目―一四行目(中略)

七五頁九行目―七七頁四行目(中略) 七九頁一行目―八〇頁七行目(中略)

八〇頁一三行目―八〇頁一五行目

問(1) 傍線部(1)に関して、筆者は、カウンセリングを「巧妙な管理技法」と述べているが、それはどういうことか。文意に沿って、筆者の考えを二五〇字以上三〇〇字以内で説明しなさい。 配点五〇点

問(2) 傍線部(2)に関して、筆者は、カウンセリングについて、「管理者にとってなくてはならない手法と考えられるのも、もつともである」と述べているが、それはどのような理由によるものと考えられるか。カウンセリングの技法が持つ効果を明らかにしたうえで、三〇〇字以上三五〇字以内で説明しなさい。 配点七〇点

第二問 次の文章をよく読んで、問(1)・(2)に答えなさい。

【出典】齋藤純一『自由』(岩波書店、二〇〇五年)一六頁―二五頁

※なお、原典は横書きであるが縦書きで表記し、注を省略した。

問(1) 傍線部(1)について、自由に対する制約や剥奪が「統合の過剰」ではなく「分断の深化」によって惹き起こされているならば、リベラリズムの批判がその標的を失うのはなぜか。「統合の過剰」と「分断の深化」の内容を示しながら、一五〇字から二〇〇字でまとめなさい。 配点四〇点

問(2) 傍線部(2)について、著者によれば、「経済的なもの」の圧倒的優位とは具体的にはどのようなことを指し、それがなぜ現代における自由への最大の脅威となるのか。これに対して、現状において「経済的なもの」の力を制御しうるはずの「政治的なもの」や「社会的なもの」とはどのようなもので、それがなぜ行き詰まりを見せているのか。六〇〇字から六五〇字で説明しなさい。 配点・九〇点